



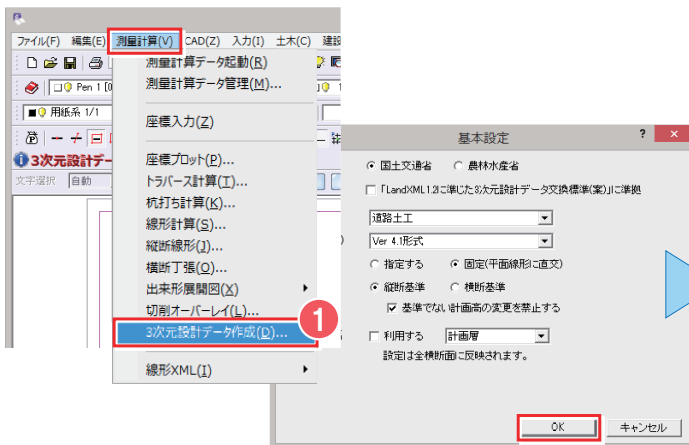
現況点群を利用した設計変更

TREND-ONEで出力したLandXMLをEX-TREND武蔵 建設CAD 3次元設計データ作成オプションで読み込み、現況地形とすり付ける方法についてご説明します。

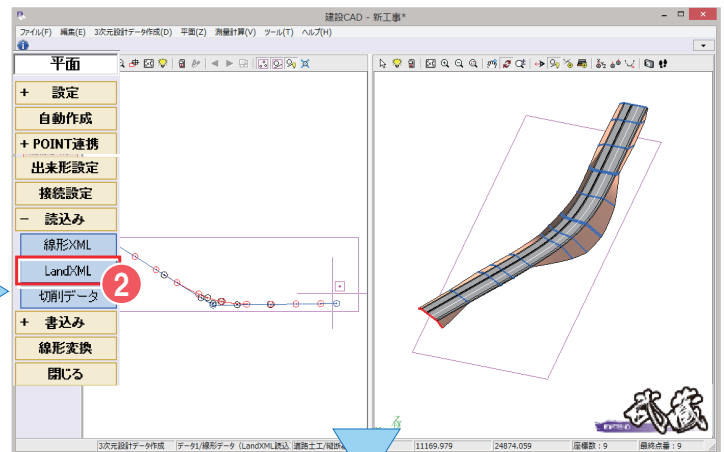
設計段階で作成した3次元設計データをLandXMLで取り込むことで、施工段階での設計データ作成の手間を大幅に削減できます。

3-1. EX-TREND武蔵で自動連携

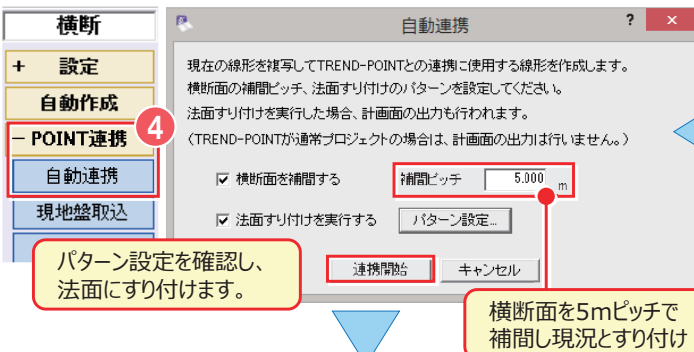
- ① 【EX-TREND武蔵】を起動し、
「測量計算－3次元設計データ作成」をクリックします。



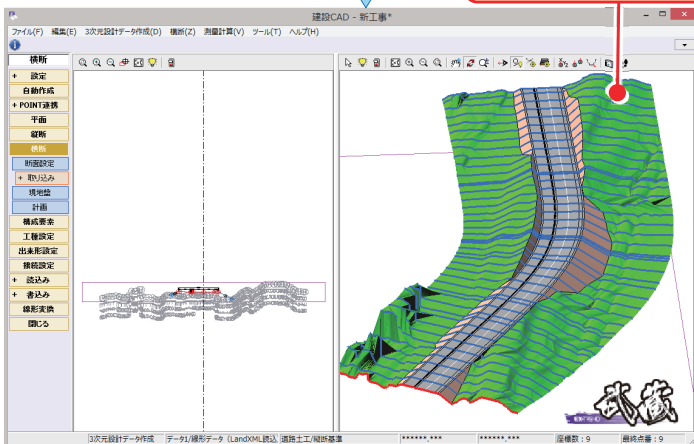
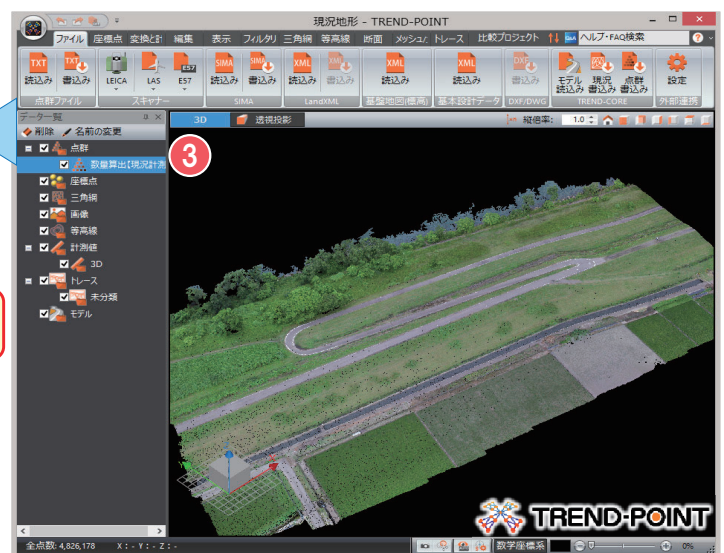
- ② 作業ガイドより
「読み込み－LandXML」をクリックし設計データを読み込みます。



- ④ 作業ガイドより
「TREND-POINT連携－自動連携」をクリックします。



- ③ 【TREND-POINT】を起動し、現況地形を開きます。



Memo

■ 自動連携する内容について

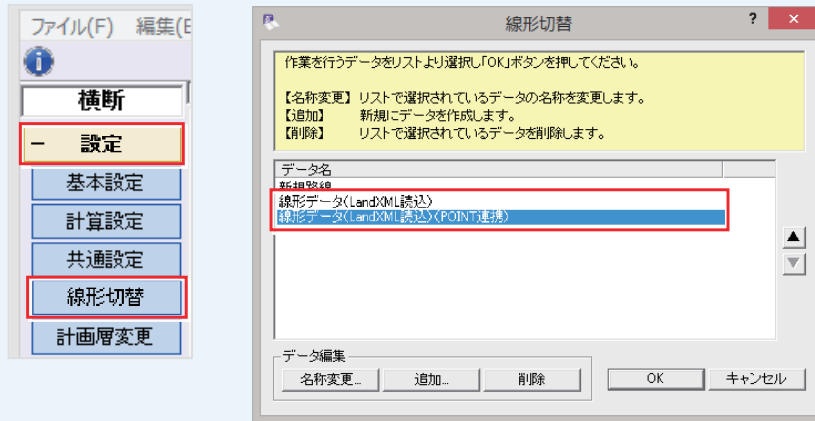
- EX-TREND武蔵 ⇒ TREND-POINT：線形を連携し、縦横断現況を自動抽出。（法面すり付けを実行すると計画面も出力）
- TREND-POINT ⇒ EX-TREND武蔵：抽出済みの現況を連携し、取得後に計画の一括すり付けを実行。

Memo

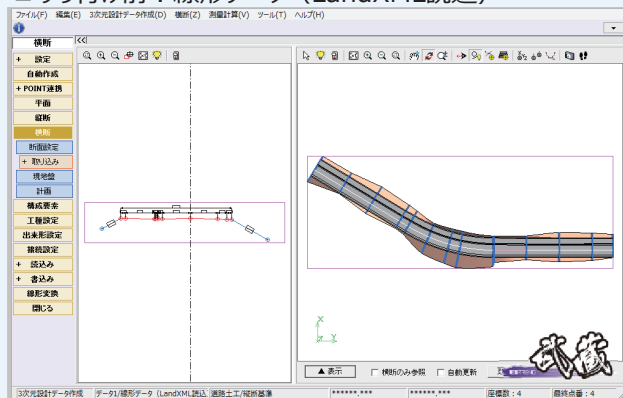
■線形切替について

TREND-POINTと自動連携すると、連携前の線形データは自動で保存されます。

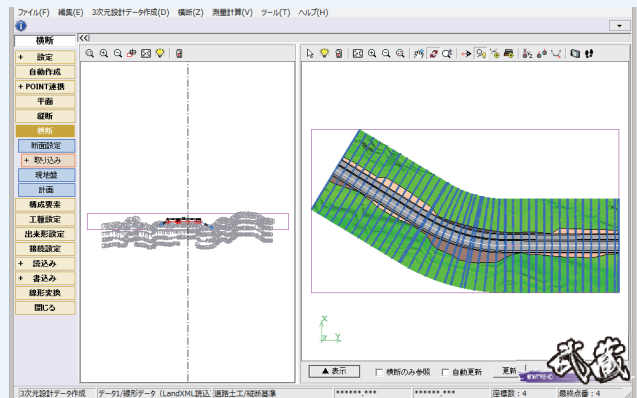
保存された線形データは、「設定－線形切替」で確認、切り替えることができます。ここでは、LandXMLファイルを読み込み後に連携したため、連携前のデータ名称には「線形データ（LandXML読み）」と表示されます。



■すり付け前：線形データ（LandXML読み）



■すり付け後：線形データ（LandXML読み・POINT連携）



■3D表示について

現況が表示されない場合には、「▲表示」ボタンより、「現地盤」のチェックをオンにします。

